ミッドワイフトーク

助産師だより

ホームページ版 Vol.2

発行　平成24年5月　第13号
（公益社団法人）栃木県看護協会
宇都宮駒生町　　3337－1
とちぎ健康の森4階TEL028-625-6141
発行責任者　河野順子

ごあいさつ

助産師職能委員長　寒河江　かよ子

助産師会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。
日頃のご協力に深く感謝しております。
2011年3.11震災から1年が経過し、栃木県においても災害発生時の対応とネットワークに関する現状課題を把握し分娩施設における防災マニュアルの整備が必要です。
助産師職能委員会の活動として、院内助産の推進に向けて助産師の技術向上と施設間の連携強化のため、産科師長連絡会の開催と助産師向けの研修会の定期開催やタイムリーな情報提供の要望を頂き、助産ケアの質向上に今後も努力していきたいと思います。
看護協会のホームページの充実と委員会活動を皆様にお知らせできるよう努めてまいります。本号は院内助産の現状を自治医科大学附属病院・国際医療福祉大学病院にご投稿いただきました。また病院紹介では新病院に移転した足利赤十字病院と開業されたやまなかレディースクリニックにご投稿いただきました。
今後の助産師活動発展のため皆様のご意見をお待ち致しております。

トピックス

院内助産の現状　―院内助産所“ラ・ヴィ”を開設して―

自治医科大学附属病院
朝野　春美

H23年3月1日、病院の理解と産科医の協力の下に、助産師の面々の長年の強い願いであった院内助産所が開設されました。“ラ・ヴィ”という愛称です。
語源はフランス語で「命」という意味です。担当の助産師は7名で24時間体制をとっております。
平成11年から行っている助産師外来（ローリスク外来）で、妊婦健診を受けている方が対象になります。目的は「自分らしいお産」です。ご本人・ご家族が安心して過ごせるように妊娠・出産・育児まで、一貫して支援しております。産科外来に通院する妊婦さんと信頼関係を結ぶことが課題です。最初の利用者は経産婦さんでした。平成23年12月3日が分娩でした。感想は「良かったです。細かなところまで配慮して下さり、安心して生むことができました。」とのことでした。開設して間もないこともあり、件数はまだまだ少ないですが、PRをし、目的に向かって活動してくれることを期待しているところです。

「助産師独立型」院内助産

国際医療福祉大学病院バースセンター
間中　伴子

「家族の近くでなるべく自然なお産を迎えたい。」という女性の思いを実現させるため当院では平成23年４月、バースセンターを開設いたしました。すぐ上のフロアには、周産期センター、扉を開ければNICUが隣接するという理想的な場所にバースセンターがあります。また、構造だけでなく全ての業務を独立させ、妊婦健診から入院、分娩、産後、新生児の管理をバースセンター内で助産師が行い、医師との連携パターンは、「助産師独立型」をとっています。実績としては、まだまだ始まったばかりで件数は少ないものの12月末までに30人の方が無事、出産されました。現在、助産師は5名です。

ケアや対象者の基準は他の院内助産施設とさほど変わらないと思いますが、「助産師独立型」の体制に理解を示し協力してくださる医師の存在、病院の方針、大学院（助産学分野）との連携、そして何よりこれだけの理想的な院内助産システムを作り上げるために実績を残してきた助産師達の存在が当院の自慢です。責任重大ではありますが、助産師としてのやりがいがここにはあります。多くの人に支えられこのバースセンターが成り立っていることや助産師本来の使命を忘れることなくこれからもスタッフ一同、努力していきたいと考えています

施設紹介

やまなかレディスクリニック

高橋　　亜未

やまなかレディスクリニックは、2010年2月に開院し今年で2周年を迎えました。
病床は11床、病院スタッフは13名です。2年間で301件の分娩に携わってきました。
現在は、月25名前後の方が出産されています。

院長は、患者さんに優しく丁寧な診察を行っており、クリニックの向上のためスタッフのことも気にかけてくれています。

具体的な看護内容を以下に記します。

外来では、バースプランを書いていただき、出来るだけ一人一人の希望に添えるよう努めています。母親学級は、妊娠中の不安や疑問を解決できるよう、また安心して出産を迎えられるよう、医師・助産師・栄養士が協力し合い開催しています。また、妊婦さんたちの体づくりや友達づくりを目的として、マタニティビクスやマタニティヨガも行っています。ベビークラスも今年に入りスタートしました。産後のママたちが赤ちゃんとのスキンシップを楽しみ、友達づくりの場として役立てていけたらと考えています。産後の母乳育児については、母乳育児が押し付けにならないよう一人一人の背景や希望により相談しながら勧めています。産後の入院は、経膣分娩の方で4日目、帝王切開の方で7日目が退院となります。特に経膣分娩の方は、母乳育児が確立されないまま退院を迎える方が多く、2週間健診でその後のフォローを行っています。まだまだ発展途上のクリニックですが、スタッフ間の話し合いを重ね、技術とｻｰﾋﾞｽの向上に努めていきたいと思います。

“私たちの病院ってこんな病院です”

新病院に移転し、新たな周産期医療を展開して

足利赤十字病院
眞下　広美

足利赤十字病院は、平成23年７月に新病院に移転しました。自然に優しい病院を目指し、太陽光発電と風力発電の装置が設置され、省CO2推進モデル病院に選定されました。
当院は、全室個室で555床となりそのうち東７病棟はLDR3床を含む30床です。産婦人科医７名、助産師20名、看護師５名、看護助手4名、事務１名で、常に満床状態で入退院が激しい中、毎日頑張っています。チームワーク良く皆で助け合いながら仕事ができるとても雰囲気の良い病棟です。病室はホテルのようにきれいだと患者さまから大変講評を頂いております。広めの個室でゆったり育児をする事ができるということから母児同室を推進し、全室個室化を活用して母児同室を推進し、以前は経膣分娩では2日目、帝王切開では３日目からの母児同室でしたが、新病院になり経膣分娩では分娩直後からの母児同室を開始しました。
帝王切開でも、術後1日目の離床が進んだ段階での母児同室となりました。もちろん安全を考慮して、褥婦状態に合わせた対応をしています。分娩直後の母児同室になってから、児の欲求に合わせて授乳ができるようになり、自然と頻回授乳となったためか母乳分泌が促され、ミルクの補足が必要な新生児が減ったように感じます。初めての育児で不安や戸惑いがある褥婦に対しては、頻回に訪室し授乳介助やご家族を交えた育児指導をし、訴えに耳を傾けて迅速に対応できるように心掛けています。個室になり、お父さんの面会時間も増え、入院中から一緒に育児参加している姿も多く見かけるようになりました。その他、以前は集団指導で行っていた沐浴指導・退院指導も個別指導になり、褥婦のニーズに合わせてお父さんやその他ご家族様と一緒に行っています。しかし、個室になり他のお母さんとの交流が減ったという声も聞かれます。今後は、お母さん同士の交流が持てる場を作るなど、今以上に産後が過ごしやすくなるように患者様の声を聞きながら改善していきたいと思います。

助産師職能委員会では

こんな活動をしています。

助産師職能集会講演　H23.6.11
「～素敵な助産師～助産師力」
妊産婦から求められる
役割を果たすための助産師活動
講師　全日本看護協会助産師職能委員長
佐山静江様
私たち助産師が、「がんばらなければ！！」と思う内容でした。

ヒューマンフェスタ　H23.10.1~2

パパはもちろん小さなお子様から
おばぁちゃまも一緒に妊婦体験や
赤ちゃん人形の抱っこなど、体験に
参加してくださいました。

助産師の縫合演習　H23.10.27
講師　済生会宇都宮病院産婦人科
診療科長　飯田俊彦様
エチコン営業部　大江伸二様

縫合難しいけど、がんばりま～す！！